中土佐町教育研究所　　令和６年度　No.2

研究所だより

例年にない猛暑続きとなっています高知県ですが、皆様方にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。また、日頃は教育研究所の運営・活動にご支援、ご協力を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

研究所がこどもセンター内に移転して、４ヶ月が過ぎました。適応指導教室のメンバーと支援に関わる業務に携わる中で、研究所の今後の在り方についてたくさんのヒントがあった４か月間でした。ただ、移転に伴う業務の変化が十分に学校現場や担当者まで伝わっていないことも多く、反省も多いところです。研究所がこどもセンターの中にあることが、中土佐検定をはじめとする基礎学力の向上や子どもたちへの様々な支援のために、よりよい効果につながるように努力していきたいと感じています。

６月１８日に、小学４～６年生を対象に、「脳を鍛え　夢と希望をかなえよう」というタイトルで東北大学加齢医学研究所の松崎泰氏による教育講演会が行われました。話の内容は、「脳は使わないと衰える。脳は使うほどよくなる、例えば、音楽、計算、読書、言葉を使う、食事をする、朝ご飯を食べる、宿題をする、家族と話す、きちんと寝るなどで、逆に、やりすぎてはいけないことは、テレビ視聴、ゲーム、インターネット、スマホなど」といった子どもたちにとって身近な話題が多く、子どもたちは熱心に聴いていました。

今年度、中土佐検定の認定証を、学校に出向いて児童に直接渡す機会をいただきました。子どもたちの嬉しそうな顔を目の当たりにし、学びや成長を支援できる機会をいただいていることに感謝し、研究所の取組の充実を図っていかなくてはと思ったことでした。

中土佐町教育研究所　所長　古谷智史

第１回　中土佐検定結果

第１回の中土佐検定結果です。（合格率は最終結果）

小学校　算数

学年	1年生	2年生（15級）	3年生（12級）	4年生（９級）	5年生（６級）	6年生（３級）	町全体
受検者数		27	38	29	34	26	154
平均点		98.3	97.6	89.8	84.7	81.4	90.6
合格率(%)		100%	100%	97%	94%	96%	97%

中学校　英語

学年	1年生（9級）	2年生（６級）	3年生（３級）	町全体
受検者数	32	38	32	102
平均点	81.5	70.1	84.8	78.3
合格率(%)	75%	63%	84%	74%

中学校　数学

学年	1年生（9級）	2年生（６級）	3年生（３級）	町全体
受検者数	32	38	34	104
平均点	82.4	82.4	79.0	81.3
合格率(%)	84%	87%	82%	85%

真剣に中土佐検定に取り組んでいる児童の様子

第１回教育研究所運営委員会報告

本年度第１回の教育研究所運営委員会を５月29日に開催しました。本年度の研究所の活動方針や重点的な取組内容の説明後、学識経験者、保護者代表、校長会代表、教頭会代表のそれぞれの委員から研究所の運営や中土佐検定について、運営についてのご意見をいただきました。一部抜粋ですが下記のような意見交換がありましたので報告します。

【こどもセンターへの移転による業務の変更について】

〇研究所で学力定着と不登校支援の両方をすると、大きな負担になるのではないか、中土佐検定での学力定着の一本柱がいいのではないか。

〇不登校に係る諸問題はどの市町村にもあること、時間はかかると思うが、取り組んでいただき、成果を上げてほしい。

〇こどもセンターに移ったことを研究所の強みとして、動けるようにしてほしい。

〇福祉の立場の人が近くにいることで方向性が見えるメリットを生かしてほしい。

〇不登校を未然に防ぐ手立ても考えてくれているのがありがたい。こどもセンターにあることでスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと連携することもできる。研究したことをぜひ現場でも実践したいので広めて欲しい。

【検定実施と基礎学力向上について】

〇再々テストまで取り組む児童生徒が、モチベーションを維持して取り組めるよう、試験の問題の内容を工夫することも一つの方法ではないか。

〇声掛けの仕方を工夫し、児童生徒がやってよかったという達成感を感じてもらえるようにしてほしい。

〇検定試験をタブレットで行うことで採点と分析などが自動になり業務の軽減にもなるのではないか

〇テキストの修正など、使いやすい工夫や要望を聞いていただいて感謝している。

〇子ども達は中土佐検定で合格したいという思いを強くもっており、試験前には自主学習をしている子どももいる。そのために、研究所から支援もしていただけるのはありがたい。

〇中土佐検定の合格率の分析についてどのようにしているのか。

（教育委員会・研究所から）

〇不登校支援はこどもセンターにもともとある機能なので、研究所の取り組み内容に組み込んだ。施設と機能の両面で良い方向性を見出したい。

〇中土佐検定の業務は確立しているので、取組を進めながら、年間の計画の中で不登校支援もできるのではないかと考える。手探りの状態ではあるが、徐々にシフトしていきたい。

〇タブレットによる検定は環境整備とともに活用の可能性を探っている。タブレットから検定テキストが見られるようにはしている。検定の採点業務をしていくためには、様々な条件が必要で将来的な見通しはまだ立っていない状況である。

〇合格率が上がらない要因の一つとして学校への発信や検定の取組を行う担当者や担任への働きかけが弱い面もあったかと分析している。検定の取り組みだけではなく、総合的に基礎学力を定着させることが大切と考えている。そのために、学校と連携して基礎的な力をつけていくための支援をしていきたい。

第１回　中土佐検定担当者会・教科担当者会報告

７月２９日に小・中学校の第１回中土佐検定担当者会、中学校の教科担当者会をそれぞれ開催しました。１回目の検定結果や各校の取組や課題を共有し、次のことについて確認しました。

①第１回中土佐検定の平均点・最終合格率について　②各科目の採点基準について

③検定の実施時期について　④テキスト・検定の内容の改善策について

⑤社会科副読本の活用状況と改善策について（小学校のみ）

中土佐検定テキストと中土佐検定は、各校の実態の中で工夫しながら活用していただいており、児童生徒の励みになっているという意見が多かったです。意見交換の中で、テキストや検定問題の改善についてのご意見をたくさんいただきました。また、小学校では３・４年生の社会科副読本の内容について学習の場面での使い勝手など改善への意見をたくさん頂きました。特に、中学校の教科（数学・英語）に関わる意見は大変に参考になりました。対応できない点もありますが、参考にして改善につなげていきたいと考えています。

今回、検定の再々試験や認定証の扱いを変えたり、適応指導教室での検定受検の機会を作ったことなどにより、久しぶりに合格になった、初めて受検できたなど、こどもたちの励みになるような事例があったことは良かったと思っています。

多くの子どもたちがテキストを効果的に活用し検定に臨むことで、中土佐の子どもたちの基礎学力の定着・習熟につながるよう取り組んでいく必要性を感じたことでした。

各校の取組状況は表の通りです。

小学校（算数）

学校名	本年度の学校や家庭での取り組み
大野見小	・毎日の帯タイムに活用している。 ・テストやプリント等が終わった後、すき間時間等にも個人で取り組むようにしている。 ・検定前のプレテストで個々の力を把握し、指導に役立てている。 ・復習として、家庭学習でも取り組んだ。
上ノ加江小	・水曜日5校時に「上小タイム」を設定し、全校で中土佐検定に取り組んでいる。 ・月曜日の帯タイムに「ことばのきまり」の時間として設定し、全校で取り組んでいる。 ・検定2週間前くらいからは、授業の学習内容が終わった後にプレテスト A,B,C に繰り返し取り組ませている ・検定前に再度、家庭学習でプレテスト A,B,C に取り組ませている。
久礼小	・計算タイムでテキストに取り組んでいる。 ・プレテストや過去問題に取り組んでいる。特にプレテストは繰り返し取り組んでいる。 ・2年生から6年生は加力の時間に取り組み、１年生は算数の時間等でも取り組んだ。 ・高学年は夏休みの宿題で、テキストに取り組んでいる。

中学校（数学）

学校名	本年度の学校や家庭での取り組み
大野見中	・生徒が実態を正確に把握することができるようにプレテストを活用している。そのうえで、生徒が自分たちの課題を考え、その解消のために帯タイム・チャレンジタイムなどを活用し、学力向上につなげることができた。 ・プレテスト問題を活用し、問題の解き方を定着させ、家庭学習の充実につなげている。
久礼中	・終学活で５分間、テキストの問題をノートに書いて学習するようにした。 ・１週間前にプレテストを行う。 ・授業で間違いランキングを示し、どこが間違っているのか見出ださせ、正しい答えを考えさせている。 ・検定１か月前から取組集中期間と銘打って、朝学習も行うようにしている。 ・長期休業中の課題として取り組ませる

中学校（英語）

学校名	本年度の学校や家庭での取り組み
大野見中	・まずプレテストに挑戦したうえで、間違えた問題から自分の課題を発見し、苦手な分野のページに戻り、自主学習できるようにしている。チャレンジタイムでは、全学年でテキストに取り組むため、学年を超えて教え合いをし、互いに学び合い、高め合う環境にある。 ・中土佐検定の問題を家庭学習などで活用し、基礎・基本の定着につなげている。
久礼中	・4週間前より取り組み開始。1週間前プレテスト A・B 実施。 ・80 点未満の生徒は放課後学習を実施。 ・検定前はテキストから抜粋した問題を取り組ませている。 ・授業で帯タイムでも復習プリントして活用。 ・指定はしていないが久礼ノートに自主的にテスト範囲を勉強している。 ・定期的に宿題にしている。

輝く中土佐の子どもたち

本年度も町内各校の公開授業研究会に参加させていただき、「研究所だより」の中で授業の様子や授業の中で子どもたちが輝いている姿を掲載させていただきたいと思います。すべて掲載できませんでしたのでお許しください。

上ノ加江小学校の授業の様子

☆５月２４日（金）　上ノ加江小学校校内研修
授業者：市川 麻子　教諭
単元名：算数科　５年「かけ算の世界を広げよう」、６年「分数をかける計算を考えよう」
感　想：　上ノ加江小学校では、学習リーダーを中心に、自分たちで学習を進めていく授業を目指しています。この授業も、指導者は子どもたちにできるだけ考えさせて口出しせず見守る。自分たちで考え方を導き出すという、日頃の授業での取組が生かされた授業でした。またそのために、考えを伝え合う場面での声がけや手立てがきちんとできていました。松山中部教育事務所指導主事の講話では、タブレットなどの ICT 機器を単元を通して活用することが大切で、アナログ的な良さと ICT 機器を選択しながら使いこなしていくことが必要だということです。（古谷）

久礼中学校の授業の様子

☆６月１１日（火）　久礼中学校授業改善プラン
授業者：森　将人　教諭
単元名：数学科　１年「文字と式」
感　想：　今までの数学学習の学びをベースに、自分たちで解き方を考えていく授業でした。ノートを振り返ったり、小学校のときの学びをヒントにしたりしていました。グループでの学び合いや発表の機会もあり、授業者のきめ細かい準備や声掛けなどの支援がありました。中土佐検定間違いランキング上位の問題を扱って意識付けを行っていることがありがたかったです。（古谷）

☆６月１１日（火）　久礼小学校校内研修
授業者：吉本　理　教諭
単元名：学級活動　３年「自分たちでお楽しみ会をやってみよう！」
感想　：　学級活動は、学校生活において最も身近で基礎的な所属集団である「学級」を基盤とした活動です。久礼小学校の３年生では、司会進行や記録を子どもたちで行う学級会を３年生になって初めて行っていました。お楽しみ会をより良いものにしたいというゴールに向かってクラスで意見を交わしながら、自分達で学級会を進めていました。会の中では、誰かが意見を発表する時も相手の方へ体を向けて聞くなど、一人ひとりを大切にした授業雰囲気がとてもすてきでした。（渡部）

☆６月２５日（火）大野見中学校授業改善プラン
授業者：岡村　勲　教諭
単元名：数学　２年「方程式を利用して問題を解決しよう」
感　想：　身近な題材を扱って子ども達にとって考えやすい授業展開でした。問題に対する解決方法を、ICT 機器を活用して共有することで一人ひとりが考えをもって問題にのぞみ、途中で悩んでも友達に相談できる雰囲気ができているので、全員が解決に向かっていました。小中の連携がされているので、小学校での学びと関連付けるなど学習状況に応じた支援もされていました。これまでに学習したことがクラウド上に毎時間記録されているので、１年を通して自分の学びを振り返りながら学習しているので、ICT 機器の活用の参考になりました。（渡部）

大野見中学校の授業の様子

☆６月２８日（金）大野見小学校校内研修
授業者：足達 瑛莉香　教諭
単元名：国語　５年「地域のみりょくを伝えよう」、６年「いざというときのために」
感　想：　地域のみりょくをより相手に伝えるためや、分かりやすい論の進め方にするためなど目的に応じて書く単元でした。構成を考える時に Sticky notes（付箋アプリ）やスプレッドシート（表アプリ）といった考えをまとめるのに効果的な ICT のソフトを活用していました。ICT 上で編集できるので、自分の考えをまとめるだけでなく、友達の考えも見ることもできるので「何でそう考えたの？」「こっちの方がどうかな？」と考えを伝え合いながら自分達で学習を進めていました。指導者は両学年の間に立って様子を見ながら、「本当にそれでいいの？」と問いかけることで、子ども達が一度立ち止まるきっかけを与えることで手立てがなされていました。（渡部）

研究所便り　令和６年度　第２号　　発行　中土佐町教育研究所
〒789-1301 高知県高岡郡中土佐町久礼 6551-1
TEL 0889-52-2250　FAX 0889-52-2643　　発行日　令和６年８月６日